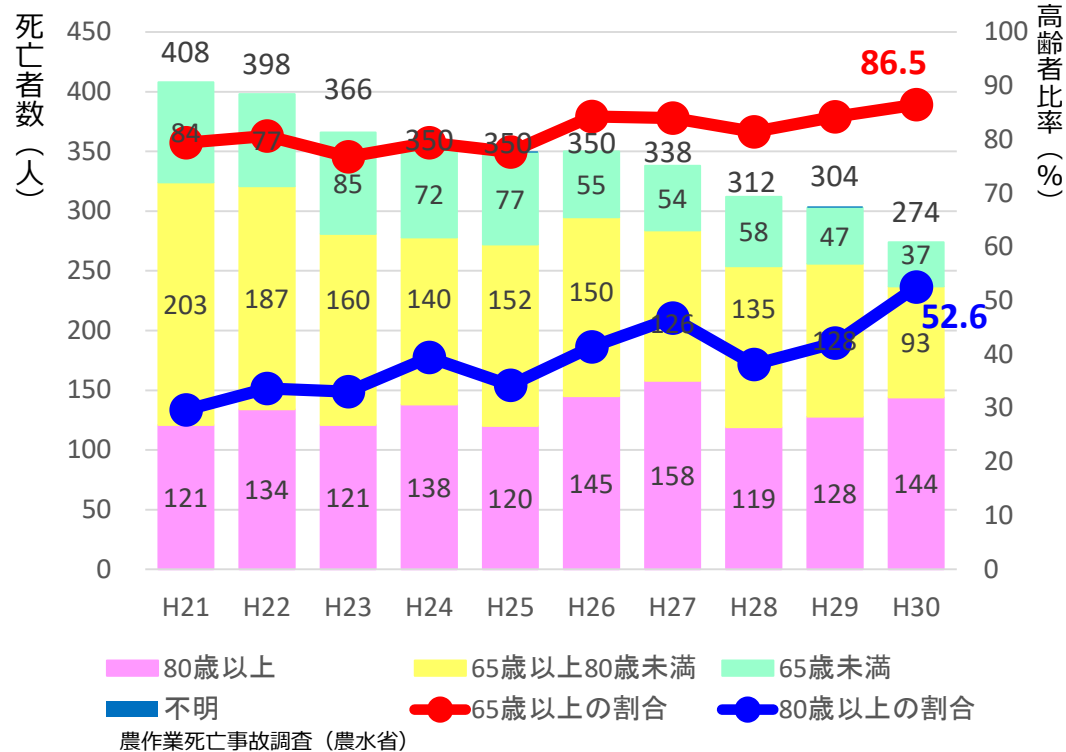


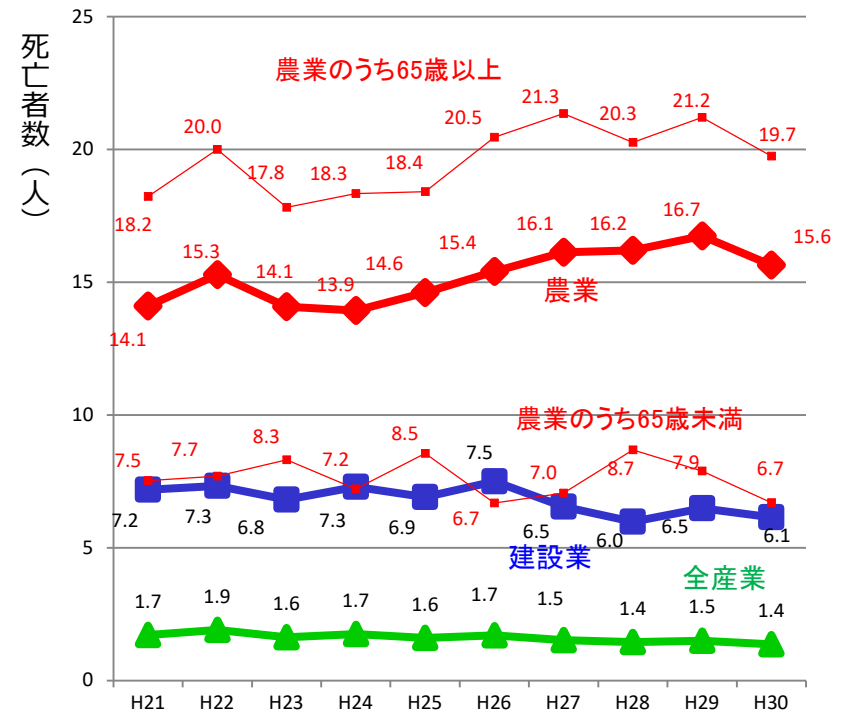
平成30年に発生した農作業死亡事故の概要

- 平成30年の農作業事故死亡者数は274人で、昭和46年の調査開始以降最小となったが、農業就業人口10万人あたりでは15.6人と、他産業との差は依然として大きい。（建設業:6.1人、全産業平均1.4人）
- また、65歳以上の高齢者の事故は237人（86.5%）、80歳以上は144人（52.6%）と、高齢者の比率はいずれもこの年齢区分での調査開始以降最大となった。

農作業死亡事故の発生状況



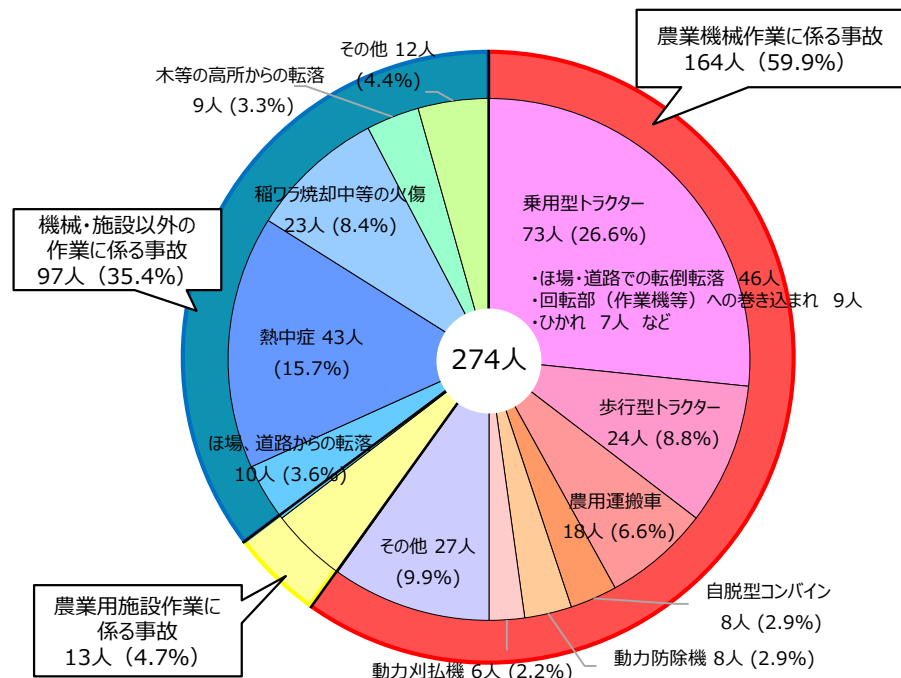
10万人あたり死亡者数の推移



死亡者数 農作業死亡事故調査（農水省）、死亡災害報告（厚労省）
 就業人口 農林業センサス、農業構造動態調査（農水省）、労働力調査（総務省）

- 事故要因を区分別にみると、「機械事故」、「施設事故」、「それ以外の事故」のうち、「機械事故」が164人（59.9%）と引き続き最も大きい事故要因となっている。
「機械事故」では、「乗用型トラクター」による事故が73人と最も多く、このうち「ほ場・道路での転落・転倒」が46人と最も大きい状況が続いている。
- また、平成30年7月は、統計開始以来東日本では1位、西日本では2位の記録的な高温となったこともあり、「熱中症」の事故が43人と調査開始以降の最大となった。

要因別の死亡事故発生状況



農作業死亡事故調査（農水省）

農作業中の死亡事故発生状況の推移

（単位：人、%）

	26年	27年	28年	29年	30年
死亡者数	350	338	312	304	274
農業機械作業に係る事故	232 (66.3)	205 (60.7)	217 (69.6)	211 (69.4)	164 (59.9)
農業用施設作業に係る事故	24 (6.9)	14 (4.1)	14 (4.5)	13 (4.3)	13 (4.7)
機械・施設以外の作業に係る事故	94 (26.9)	119 (35.2)	81 (26.0)	80 (26.3)	97 (35.4)
うち熱中症によるもの	19 (5.4)	27 (8.0)	19 (6.1)	22 (7.2)	43 (15.7)

農作業死亡事故調査（農水省）